



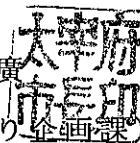
19 太ま企第 50 号

平成 19 年 5 月 1 日

国土交通省道路局長 殿

太宰府市長 井上 保廣

(地域振興部まちづくり企画課)



中期的な計画の策定にあたっての意見の提出について

このことについて、別紙のとおり提出いたします。

## 中期的な計画の作成にあたっての意見について

道路をはじめとする交通施設は、都市基盤の根幹をなし、生活と人の交流や経済活動、土地利用の動向に直結し極めて重要です。

本市域内の幹線道路については、南北軸として九州自動車道、国道3号、主要地方道県道福岡・筑紫野線、筑紫野・古賀線、福岡・日田線などを有し、福岡都市圏の広域交通ネットワークに恵まれている環境ではあるが、東西軸については、JR鹿児島本線、西鉄大牟田線の鉄道との交差により流動性、広域性に欠けているのが現状です。

また、本市は太宰府天満宮や九州国立博物館、特別史跡大宰府跡などを擁した福岡県内有数の観光地であることから、車での来訪者に対応した交通混雑緩和策が重要な課題となっており、筑紫野・古賀線の4車線化、筑紫野・太宰府線、観世音寺・二日市線の改良、道路情報板の整備、JR、西鉄などの鉄道との立体交差など、早急な整備が求められています。

道路整備に関しては、歩いて、運転して、それぞれが快適を感じ、かつ地域の特性に応じた整備を進め、バリアフリー化を基本とした安全性を最重点に、通過、生活、観光交通を対象として、車、自転車、歩行者の交通手段等、それぞれの交通の流れを体系的に整備していくことが重要と考えます。

しかしながら、市街化の進展や地形的な制約を受ける本市にとって、増え続ける交通需要に対応するための新規路線整備等には限界があり、パークアンドライド等のTDM施策の推進を図り、交通施設に対して負荷の少ないまちづくりを進めていくことが求められています。